

スピードラダーゲッター

資料：日本レクリエーション協会

常総市社会福祉協議会

ボールを投げて、全てのラダーにどれだけ早く掛けられるかをタイムアタック(3分以内)で楽しむゲームです。シングルス戦やダブルス(ペア)戦と違い、チーム戦で行います。

【人 数】

1 チーム 3～6人

【チーム隊形】

先頭だけ専用ボールを持って、縦一列にスタートラインに待機する。

【用 具】

ラダーゲッター用具一式

【カウント】

スタートの合図から全てのラダーに1個ずつボールがかかったあと、全員でラダーを周回してスタートラインに戻るまでを計測します。

【競技ルール】

- スタートラインからラダーまでの距離は5mとする。
- 開始の合図で、1人ずつボールを投げる。
投げ方はアンダースローとする。
- 3本のラダー全てに、ボールが1個ずつ引っ掛かり、全員でラダーを周回してスタートラインを越えなければならない。また、超えた時点のタイムがそのチームの記録となる。
- ボールは直接ラダーに掛からなければならない。

- 投げたボールが、ラダーに引っ掛からなかったり、すでにボールが掛かっているラダーに再度掛けてしまった場合は、ボールを投げた人が取りに行く。
- 取りに行ったボールは、次の人に手渡しする。
- 投げる人の順番は変えてはいけません。
- ボールは、3個用意しラダーに掛かるまでは全員が同じボールを使う。
- 使用しないボールは床に置く。各自で持たない。
- 全てのボールが掛かったら、全員でラダーを回ってスタートラインを超える。

【アウト】

- スタートラインを踏み越えてボールを投げてしまったとき。
- ボールを手渡しせず投げて渡したとき。
- ラダーを回るとき、ラダーに触れたとき。
- 競技時間が3分を超えてしまったとき。

【審判法】

主審

- 開始時に「よーい、スタート」のコールを行う。
- アウトの判定を行う。失敗や失格行為などがあったとき、笛などでアウトコールを行う。

副審

- スタートのコールと同時に競技時間を計測する。
- 全員がスタートラインに戻ってきたときに計時を停止させる。
- 競技終了後、主審にタイムを報告する。
- アウトの判定を補佐する。

* 審判員の位置

- 主審・・・競技スペースからチームが見える位置にいること。
- 副審・・・スタートラインの真横にいること。